

昭和音楽大学オペラ公演 2022
「フィガロの結婚」

「実演舞台芸術の 新たなビジネスモデルを 構築する」

～ポスト・コロナ時代のための
アートマネジメント人材育成～
(Vol.2)

参加費無料

要事前申込定員制

企画監修 石田 麻子

ポスト・コロナ時代の実演舞台芸術には、最新テクノロジーを活用した新たな制作方法が求められています。最先端で活躍する専門分野の講師陣によるオンライン講座を通じて、新たなビジネスモデルの構築を考えます。文化施設・自治体・芸術団体の現職スタッフは勿論のこと、その担い手を目指す方のご参加をお待ちしております。



「カメレオンズ・リップ」
(美術：石原 敬 2021)

オンライン講座 「実演舞台芸術のこれからの姿と社会実装」

A
コース

担当講師	笹井 裕子 (びあ総合研究所株式会社 取締役所長)	嘉村 哲郎 (東京芸術大学芸術情報センター 准教授)
	石原 敬 (セットデザイナー、BLANK Research and Development INC.)	小野 隆浩 (大阪芸術大学教授 / びわ湖ホール・音響デザイナー)
モデレーター	石田 麻子 (本学教授・オペラ研究所所長 / 舞台芸術政策論)	酒井 健太郎 (本学准教授 / 芸術学・文化論)
	八木 清市 (本学教授 / 舞台監督)	

B
コース

オンライン講座 「実演舞台芸術の制作過程におけるオンライン導入 ～オペラ《愛の妙薬》の演出事例に学ぶ」

担当講師	馬場 紀碧 (本学講師 / オペラ演出)	柴山 昌宣 (本学教授 / 声楽)
------	----------------------	-------------------

オペラ
公演

昭和音楽大学オペラ公演 2023 G.ドニゼッティ オペラ《愛の妙薬》

指揮：ニコラ・パスコフスキ 演出：マルコ・ガンディーニ

A・B各コースを通して受講される方は、実演舞台芸術の実践例として、上記公演(1回)を鑑賞し、レポートを提出いただきます。

主催：昭和音楽大学



オンライン講座

「実演舞台芸術のこれからの姿と 社会実装」

研修概要

本講座では、コロナ禍で生まれた状況や、それにより加速した技術革新を活用して、実演舞台芸術の新しいビジネスモデルの構築を学ぶことを目的とします。

対象

文化施設、自治体や芸術団体の職員、市民オペラや合唱団等のスタッフ、またはその担い手を目指す方。

オンライン講座募集人数

①同時双方向型：各回30名(ZOOM) ②録画配信型：100名(YouTube)

受講方法

「Zoom」を使用したオンライン講座 各回受講後、受講レポートをご提出ください。
※Zoomの受講環境の準備および通信料は参加者の負担となります。(PC使用)

1

「コロナ禍で起きたライブ・エンタテインメントの進化」

コロナ禍で、ライブエンタメ市場の約8割が消失するという大打撃を被った一方で、有料配信ライブの台頭をはじめ、様々な取り組みも加速しました。さらにこれから何が起ころうとしているのか、を知るための講座です。

日 時： 2023年10月20日(金) 18:30～20:00
講 師： 笹井 裕子 (びあ総合研究所株式会社 取締役所長)
モデレータ： 石田 麻子 (本学教授・オペラ研究所所長/舞台芸術政策論)

2

「舞台空間のつくりかた」

人々を魅了する舞台芸術やライブイベント。その魅力をより引き出すために必要な「空間演出」の作りかたとは？ それらを創造するために必要な感性や技術とは？ エンターテインメント事業の現在と未来を紐解く。

日 時： 2023年11月8日(水) 18:30～20:00
講 師： 石原 敬 (セットデザイナー、BLANK Research and Development INC.)
モデレータ： 八木 清市 (本学教授/舞台監督)



「半神」(美術：石原 敬 2018)

3

「芸術活動をデジタルで記録する～音楽活動のアーカイブ制作の実例から～」

講師は、東京藝術大学における「総合芸術アーカイブセンター」の先駆的な取り組み以来、演奏会等のデジタルアーカイブを進めてきた。本講座では、これまでに行ってきた東京藝術大学における学内演奏会のデジタル記録と活用の事例と、その問題点を紹介する。そして、音楽を含む芸術に関する情報をデジタルで記録・活用することについて考えたい。

日 時： 2023年11月30日(木) 18:30～20:00
講 師： 嘉村 哲郎 (東京藝術大学芸術情報センター准教授)
モデレータ： 酒井 健太郎 (本学准教授/芸術学・文化論)

4

「実演舞台芸術における音響デザインの先進事例 ～びわ湖ホール・ワグナーオペラでの挑戦」

オペラは「生の演奏による音楽が基本の芸術」です。そこに「わかりやすくするための演出」が加わった場合「音」そのものをどう表現するのか。びわ湖ホールでの実例を挙げ「舞台芸術」としてのオペラを掘り下げます。

日 時： 2023年12月6日(水) 18:30～20:00
講 師： 小野 隆浩 (大阪芸術大学教授/びわ湖ホール・音響デザイナー)
モデレータ： 八木 清市 (本学教授/舞台監督)



びわ湖ホールオペラ《ニーベルングの指環》2016-2020



オンライン講座

「実演舞台芸術の制作過程におけるオンライン導入 ～オペラ《愛の妙薬》の演出事例に学ぶ」

対象 文化施設、自治体や芸術団体の職員、市民オペラや合唱団等のスタッフ、またはその担い手を目指す方。

募集人数 各30名

受講方法 対面 各回受講後、受講レポートをご提出ください。



I

オペラ公演《愛の妙薬》におけるオンラインによる演出指導の映像記録を公開する。

オンライン見学生配信【講師によるレクチャー付】

- ① リモート指導による立ち稽古 2023年8月28日(月) 13:30-16:30(予定)
- ② リモート指導による舞台稽古 2023年10月1日(日) 13:30-16:30(予定)
- ③ ゲネプロ(総合リハーサル)見学 2023年10月6日(金) 14:30-18:30(予定)



II

オンライン講座「制作スタッフが学ぶ～オンラインによるオペラ演出」

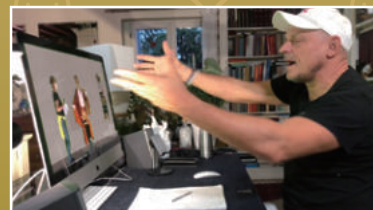
A)の録画素材などを教材として、オンラインを活用したオペラ演出の実践を学ぶ「まとめ」講座

日時： 2023年12月12日(火)
18:30～20:00

講師： 馬場 紀碧 (本学講師/オペラ演出)、
柴山 昌宣 (本学教授/声楽)

アーカイブ配信

A・BコースIIの各講座を
ライブで受講できない方へ、
後日録画配信予定です。(申込制)



オペラ 公演

昭和音楽大学オペラ公演 2023 G.ドニゼッティ オペラ《愛の妙薬》

公演：2023年10月7日(土)・8日(日) 各日14:00開演
 会場：昭和音楽大学テアトロ・ジーリオ・ショウワ
 指揮：ニコラ・パスコフスキ 美術：イタロ・グラッシ
 演出：マルコ・ガンディーニ 衣裳：アンナ・ピアジョッティ

A・B各コースを通して受講される方は、実演舞台芸術の実践例として、上記公演(1回)を鑑賞し、レポートを提出いただきます。



ニコラ・パスコフスキ



マルコ・ガンディーニ



イタロ・グラッシ



アンナ・ピアジョッティ

Zoomを利用した
オンライン
講座

オンライン会議ツール「Zoom」によるリアルタイム配信講座となります。ご自宅や職場からお気軽にご参加いただけます。

Zoomご利用の流れは
https://www.tosei-showa-music.ac.jp/howto_zoom_PC.html

受講方法の詳細は、お申込者へメールにてご連絡いたします。

※ご受講には「Zoom」アプリ(無料)をインストールしたPCとインターネット通信環境が必要です。(マイクやカメラが非搭載のPCをご使用の場合は別途webカメラ等をご準備ください。また、通信料は各自のご負担となります)

※Zoomの利用方法、動作環境等をご自身でご確認ください。(本学でのサポートは致しません)

Zoom公式サイト <https://zoom.us/jp-jp/meetings.html>

※上記サイト下部の「ダウンロード」より「ミーティング用Zoomクライアント」をダウンロード、インストールしてください。

笹井 裕子
Yuko SASAI



びあ総合研究所株式会社 取締役所長。早稲田大学大学院経済学研究科修了（経済学修士）。市場調査会社を経て、1999年びあ株式会社入社。現在、びあ(株)執行役員。兼、びあ総研(株)取締役所長。2002年のびあ総研(株)設立時より、集客エンタメに関する、定量・定性両面からの研究・分析に携わる。約20年間にわたり、『ライブ・エンタテインメント白書』の執筆・編集を担当。「チケットびあ」の、約1700万人の会員、年間約6,400万枚のチケット販売データの分析も担当。

石田 麻子
Asako ISHIDA



東京藝術大学大学院オペラ専攻非常勤講師、『日本のオペラ年鑑』編集委員長、文化審議会文化経済部会委員などを務めている。単著に『市民オペラ』（集英社新書、2022年）、『芸術文化助成の考え方』（美学出版、2021年）、日本語版監修に『クラシック音楽家のためのセルフマネジメント・ハンドブック』（アルテスパブリッシング、2020年）などがある。東京藝術大学博士課程修了、学術博士。昭和音楽大学教授・学長補佐、オペラ研究所所長、舞台芸術政策研究所所長。

石原 敬
Kei ISHIIHARA



1990年に渡米。1994年New York School of Visual ArtsのFine Arts学科を経て、Illustration/Commercial Arts学科を卒業。コマーシャルデザイナーとしての活動と並行して、2008年よりセットデザイナーとしての活動を開始。ジャンルを問わない作風が評価され、インスタレーション/コンサート/ファッションショー/エキシビションなど、活動の場を広げている。American Illustration 広告部門特別賞、2011年度伊藤薫賞新人賞を受賞。2019年よりBLANK Research and Development INC.設立。参加作品に『ジャック・ザ・リッパー』『Reframe2019-2020』、劇団四季『バケモノの子』、『チャーリーとチョコレート工場』など。



八木 清市
Seiichi YAGI

1989年、ニケ企画事務所に入る。1999年、ニケステージワークス（ニケ企画事務所改名）取締役就任。ニケ企画事務所時代には、主に海外からの日本公演舞台監督として、ニケステージワークス時代には、国内でのオペラ・バレエのプロダクションの舞台監督として多くの舞台に携わる。昭和音楽大学教授。



嘉村 哲郎
Tetsuro KAMURA

東京藝術大学 芸術情報センター及び情報戦略統括室（CIO室）所属。駿河台大学大学院文化情報学研究科修了（文化情報学）、研究大学院大学博士課程修了 博士（情報学）。国立新美術館インターン、国立情報学研究所技術補佐員、インフラ系SE職を経て東京藝術大学 芸術情報センターに勤務。東京藝術大学総合芸術アーカイブセンターなどの活動を経験して現在に至る。その他に特定非営利活動法人Linked Open Data Initiative理事などを兼務。研究テーマは博物館情報の組織化、芸術作品・資料等のデジタル化およびアーカイブなど。



酒井 健太郎
Kentaro SAKAI

筑波大学第2学群生物学類、比較文化学類を卒業後、同大学大学院人間総合科学研究科を修了して博士（芸術学）。近代日本（人）の文化的アイデンティティを解明すべく、とりわけ対外的な文化宣伝における音楽の活用に着目して研究している。昭和音楽大学オペラ研究所では『日本のオペラ年鑑』の編纂や「昭和音楽大学オペラ情報センター」（日本のオペラ上演に関するオンラインデータベース）の構築に携わった。昭和音楽大学准教授。

小野 隆浩
Takahiro ONO



舞台音響デザイナー、サウンドシステムチューナー。現在、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール・音響デザイナー、大阪芸術大学舞台芸術学科・教授。日本音響家協会・評議員、日本舞台音響家協会・会員。出光音楽賞、日本音響家協会賞、全国公協特別功労賞、上方の舞台裏方大賞、文化庁長官表彰を受賞。著書「オペラと音響デザイナー～音と響きの舞台をつくる～」

馬場 紀碧
Norio BABA



昭和音楽大学声楽科卒業後演出家を志す。平成12年度文化庁芸術家在外研修員、財）ロームミュージックファンデーション在外研修生として渡欧。藤原歌劇団、日本オペラ協会、東京オペラプロデュース、昭和音楽大学オペラ公演などで「シラノ・ド・ベルジュラック」「復活」「じゃじゃ馬ならし」「戯言の饗宴」「ペルファゴール」の日本初演をはじめ、「紅天女」初演の他、百数十公演の名作オペラを演出。昭和音楽大学講師。

柴山 昌宣
Masanobu SHIBAYAMA



国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。五島記念文化財団奨学生としてイタリアに留学。87年「フィガロの結婚」フィガロ役でオペラデビュー後、イタリア・カリアリ劇場にて「婚約手形」スルック役で国際デビュー。藤原歌劇団で91年「夢遊病の女」アレッシオ役でデビュー後、ファウスト、愛の妙薬、セビリヤの理髪師、日本オペラ協会の天守物語、瀧廉太郎、夕鶴、新国立劇場でホフマン物語、なりゆき泥棒、外套等に出演し、いずれも高評価を博す。モーツァルトやフォーレのレクイエム、J.S.バッハのマイ受難曲等のソロでも活躍。第6回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。現在、藤原歌劇団団員、昭和音楽大学教授。

お申込
方法

昭和音楽大学ホームページよりお申込みください。
以降の連絡はお申し込みをいただきました
メールアドレスにいたします。

お問合せ

昭和音楽大学演奏支援室
アートマネジメント人材育成担当

※下記アドレスからのメールが受信できるよう
設定をお願いいたします。Gmail、Yahooメールは
自動返信メールが届かない場合があります。

art.jinzai@tosei-showa-music.ac.jp



〒215-8558 神奈川県川崎市麻生区上麻生 1-11-1
[TEL] 044-953-9865 (10:00～18:00 ※土・日・祝を除く)
[FAX] 044-953-1311 (24時間受付)
[mail] art.jinzai@tosei-showa-music.ac.jp